

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

関市公共交通活性化協議会 (関市)

平成21年 3月21日設置

令和4年 3月23日 関市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和4年4月～令和9年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

地域の特性

- ・ 岐阜県の中心部に位置
V字型 472.33km²
長良川鉄道が市の中心部を南北に運行
- ・ 市内移動の大部分をバスで担う

公共交通計画名及び期間

「関市地域公共交通計画」
(令和4年度～令和8年度)

計画で目指す公共交通の将来像

ずっと暮らし続けられる関市を支える
地域公共交通ネットワークの構築

- 目標1** 高校生が公共交通で通学できるサービスの提供
- 目標2** より多くの人を使いやすい公共交通サービスの提供
- 目標3** 持続可能な公共交通サービスの確保

地域公共交通ネットワークのイメージ図

★:地域内フィーダー系統



取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
施策群 1 2バス路線の再編	市中心部を運行する 買い物循環線を 1時 間に1本に増便 し、 パターンダイヤ を採 用（R2.10再編）	年間利用者数 令和元年度 45,257人 令和2年度 35,211人 令和3年度 43,509人 令和4年度 52,270人 令和5年度 56,827人 令和6年度 61,042人	増便とわかりやすいパターン ダイヤの採用により、 コロナ 禍の利用者数を上回る 路線と なっている。 他の路線と違い、朝、昼、夕 方どの時間帯も利用者数が確 保 できている。
★施策群 1 4バス停・駅環境の 改善	関シティターミナル ・モニュメント、 ポケふた設置 ・ウィンターイルミ ネーション実施 ・芝生の張り替え 関駅 ・案内看板の更新 （関商工）	 	直接的な利用者増には繋がら ないが、関商工の高校生にも 協力してもらい、関市の玄関 口として、来訪される人を出 迎える環境を整備した。
施策群 2 3 学生通学支援補助 制度の実施	高速名古屋線の通学 定期乗車券購入に対 して1カ月あたり 10,000円補助 （令和6年4月から 5,000円増額）	令和4年度 申請者65人 補助金額 1,855,000円 令和5年度 申請者78人 補助金額 2,340,000円 令和6年度 申請者91人 補助金額 5,445,000円 ※R6は11月末現在	コロナ禍で利用者の減少が続 いたが、市内の高校へ 案内チ ラシの直接配布 や 補助金の増 額 、 オンライン申請に対応 し た効果もあり、増加傾向にあ る。今後も引き続き、周知活 動を継続する。

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>★施策群3 4バス・タクシー利用促進イベントの実施</p>	<p>園児による車内装飾バス（クリスマスラッピングバス）の運行</p>	<p>参加者 富岡保育園児37名 装飾車両 1台 運行期間 11月29日～12月25日 運行路線 市内3路線</p> 	<p>園児が自ら装飾を行うことにより、公共交通に慣れ親しんでもらうとともに、後日家族で装飾バスへ乗車してもらえるよう、保育園保護者に装飾バスの運行計画を配布した。</p>
<p>施策群3 5長良川鉄道利用促進イベントの実施</p>	<p>市内小学校の社会見学として、体験乗車と施設見学を実施</p>	<p>令和6年度 実施学校数 4校 受入児童数 154人</p> 	<p>市教育委員会を通して、受入募集を行い、応募のあった4校に対して、長良川鉄道の協力を得て実施した。地域鉄道として親しみを持ってもらうとともに、将来通学やおでかけで活用してもらうきっかけ作りとなった。</p>

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
<p>施策群 4 1 自家用有償運送事業の運営体制の構築</p>	<p>まちづくり団体等が運行する地域内バスの自家用有償旅客運送（空白地輸送）へ令和4年10月移行</p>	<p>自家用有償旅客運送移行地域利用者数（令和6年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 板取地域 18,821人（1,025人減） 2. 洞戸地域 9,593人（390人増） 3. 武芸川地域 10,812人（263人減） 4. 津保川地域 11,665人（228人増） 	<p>実証実験として無償運行を継続してきた地域内バスを自家用有償旅客運送へ移行することで、運賃収入を確保し、持続可能な公共交通サービスの実現に努めた。今年度、登録更新を行い、引き続き地域の移動手段として運行を継続していく。</p>
<p>★施策群 4 4 バスの乗り方教室の実施</p> 	<p>現在自家用自動車を利用している高齢者を対象とした、バスの乗り方教室やスマホ教室において、公共交通利用促進PR活動を実施</p>	<p>令和4年度 バスの乗り方教室 2 地区 参加者数 60名 スマホ教室 3 地区 参加者数 40名</p> <p>令和5年度 スマホ教室 1 地区 参加者数 15名</p> <p>令和6年度 バスの乗り方教室 2 団体 参加者数 29名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7月にケアマネージャーを対象としたバスの乗り方教室を開催し、バスの試乗と、介護を必要とする方目線での公共交通についての意見交換を行った。 ・10月に令和7年1月から乗降地点を新設する自治会住民を対象に、デマンドバスの乗り方教室を開催し、実際の車両を見ていただいたり、予約の仕方についての説明を行った。

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

自己評価

関市公共交通活性化協議会 令和6年1月19日（金）

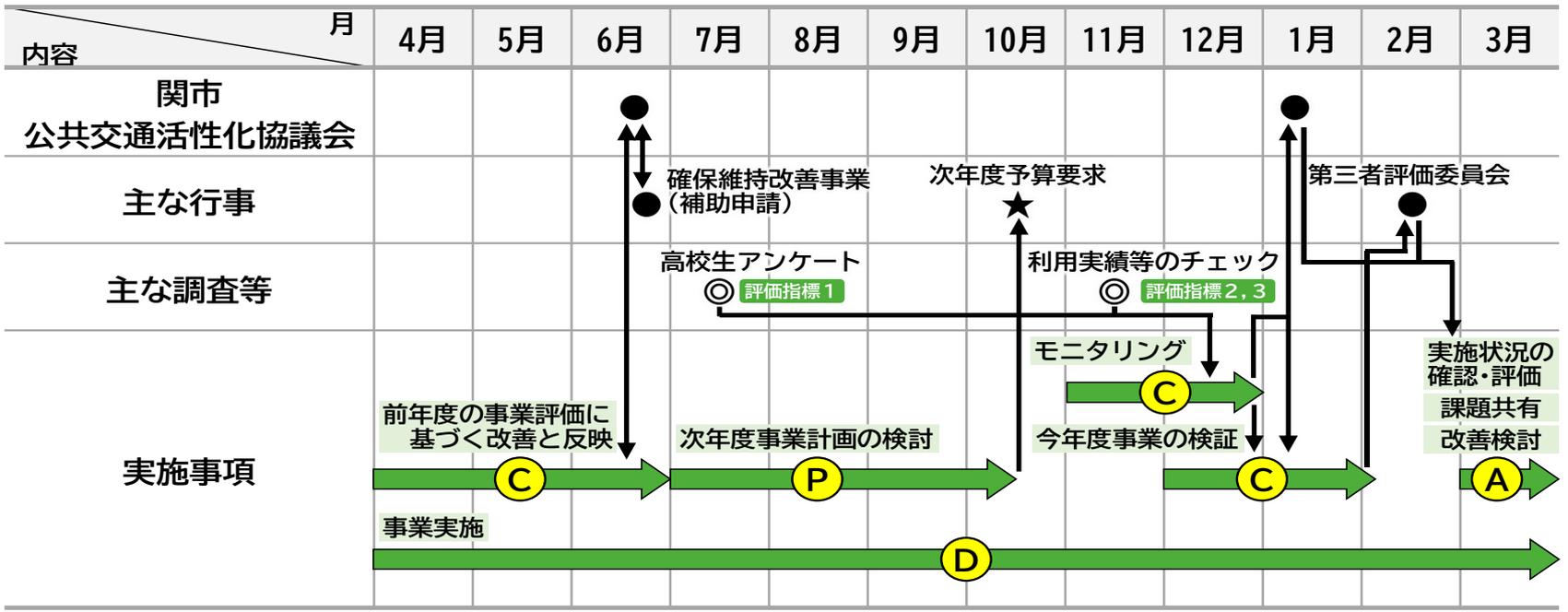
評価指標	目標値	実績値					考察
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
【指標①】 市内の高校に送迎で通学している高校生の割合（%）	8%以下	9.3%	7.9%	10.5%			前年度と比較して2.6%増加した。関有知高校への関市、美濃市の 近距離通学者割合が約2.6%増加 し、美濃加茂市からの 鉄道による通学者割合が約4.1%の減少 等で、送迎率が増加したと推測。
【指標②】 人口1人あたりの公共交通の年間利用回数（回/人）	9.0回/人以上	10.1回/人	11.1回/人	11.3回/人			前年度と比較して 0.2回/人増加 し、復調傾向にある。
【指標③】 公共交通の維持に必要な市民1人あたりの年間負担額（円/年）	5,253円/年以下	5,598円/年	5,739円/年	6,033円/年			燃料費等物価高や人件費増の影響から年間負担額は増加し、目標達成できず。
【参考】 市民の満足度向上（%）	満足 11.2%以上 不満足 50.8%以下	13.9%	15.3%	14.0%			満足、不満足ともに減少し、普通との回答が増えた。

作成目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>【指標①】 今年度目標値を達成できなかった。 前年度比較で、関有知高校への関市、美濃市の近距離通学者割合が約2.6%増加し、美濃加茂市からの鉄道による通学者割合が約4.1%の減少等で、送迎率が増加したことが主な要因と考察。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生アンケートで毎年、長鉄の運賃が高いとの意見が多く、令和7年度から高校生を対象に、長良川鉄道の定期乗車券購入補助事業を実施予定 ・毎年、中学生・高校生に公共交通での高校・大学への通学方法や助成制度の案内チラシを配布しているが、今年度から市内の学習塾へもチラシを配布し、利用促進を図っている。 →上記取組により、高校生の自家用車による送迎率を下げたい。
<p>【指標②】 人口1人あたりの公共交通の年間利用回数はコロナ禍により低下したが、徐々に復調傾向にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千疋線は4月から商業施設（マーゴ）経由としたことにより、半年間の利用者数が対前年比で25%増加した。 ・デマンドバス・タクシーは、高齢者にとって最初の利用のハードルが高いため、乗り方教室や運転免許証自主返納支援により、まずは一度利用してもらえる環境を整えていきたい。
<p>【指標③】 公共交通の維持に必要な市民1人あたりの年間負担額は増加が続いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わかくさ・富野線は利用者1人当たりの負担額が約3,700円と高い。自治会要望もあり、1月から富野地区から市中心部向かう途中にある、東山4丁目団地内に乗降地点を新設した。 乗合率を高めることで負担額の抑制を図りたい。
<p>【参考】 市民の満足度向上は「満足」、「不満」がともに減少し、「ふつう」の評価が増加した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の声から改善のヒントが得られるため、来年度に次期公共交通計画改定のための、調査事業を実施予定のため、利用状況の把握と、どのようなニーズがあるかを調査し、改善につなげていきたい。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<p>地域内フィーダー系統の補助要件に満たない路線については、現状把握や分析を進め、より住民のニーズに沿った公共交通サービスへの見直しも含め、関係者と連携し、検討や取組が進められることを期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・武儀、上之保地域から武義高校へ通う生徒が、帰宅時の長良川鉄道と関上之保線の乗継時間が短く、乗り継げないことがあるとの意見を受け、10月のダイヤ改正で関上之保線のダイヤ調整を行い、乗り継ぎ時間を確保しました。 ・自治会要望により、東山4丁目集会場にわかくさ・富野線の乗降地点を新設し、令和7年1月より運行開始します。新設にあたっては、バスの乗り方教室を開催し、デマンド予約の方法を解説し、利用促進を図りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用有償旅客運送を実施している地域では、定時運行からデマンド運行を希望する声も出てきているため、地域の要望を聞きながら、輸送モードの変更について、検討、支援していきます。 ・自治会要望や公共交通会議での意見交換を参考に、より良い公共交通サービスが提供できるようニーズ把握に努めます。
	<p>引き続き、高校進学を控えた中学生を対象として公共交通での通学に係る案内や支援に取り組まれることを期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生、高校生を対象とした、通学に利用できる公共交通や、助成制度の案内を実施しました。 ・今年度は、上記以外にも、市内の学習塾へも案内チラシを送付し、更なる周知活動を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は長良川鉄道の通学乗車券購入補助事業も実施予定であるため、広く周知して利用促進を図ります。 ・高校生アンケートを継続実施して、ニーズ把握に努め、改善の参考とします。
	<p>EVバス導入については、ゼロカーボンシティの実現や公共交通の魅力向上のほか、持続可能な公共交通につながることを期待します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続き、今年度も1台のEVバスを導入しました。 ・10月に開催された、せき環境フェア2024に出展し、来場者へEVバスの紹介をし、公共交通の魅力を広く周知しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度もEVバス導入を予定しています。運行実績を参考にし、デマンド運行車両のEV化も検討していきます。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	バスの乗り方教室やラッピングバス運行、長良川鉄道の体験乗車・施設見学など、利用促進に努めたことを評価します。	高齢者向けスマホ教室や長良川鉄道の社会見学受入、吟行俳句大会を実施し、利用促進に努めました。	来年度も実施継続できるよう、関係団体への案内と調整を実施します。
	関駅・関市役所前駅のバス停・駅の整備を行い、利便性向上に努めたことを評価します。	関シティターミナル駐輪場で新たにサイクルポートを設置し、利用者の利便性向上に努めました。	老朽化の進んだ施設を計画的に、修繕し利用者の利便性向上に努めます。
	運転免許自主返納支援事業や通学定期券補助事業を行っていることを確認しました。	継続して、運転免許自主返納支援事業や通学定期券補助事業を実施しました。	高速名古屋線の運賃が値上げとなり、利用者負担が増えるため、支援額の見直しを検討します。
	引き続き利用者や住民から課題やニーズを聞き取り、利用目的や利用したい施設をしっかりと把握した上で公共交通サービスの改善が図られることを期待します。	利用者からの要望を参考に、対象路線の利用状況の把握をした上で、ダイヤ改正によるサービスの改善へと繋げました。	要望により、利用状況等を調査の上、令和6年4月からわかくさ・千疋線がマーゴ経由できるようダイヤ改正を進めます。
	バスや鉄道だけでなく、交通以外の分野（教育、医療、介護など）も含めた地域の多様な関係者と協議して持続可能な公共交通サービスの確保・充実がなされることを期待します。	福祉部門と連携して高齢者向けスマホ教室を実施しました。教育委員会で運行しているスクールバスと路線バスを混乗運行できないか、担当者会議を開催し、検討を始めました。	交通以外の分野との協議を今後も継続して持続可能な公共交通サービスの確保に努めます。
	ゼロカーボンシティの実現に向け、EVバス導入など、持続可能な公共交通につながることを期待します。	昨年度、車両や充電設備の検討を実施し、今年度末にEVバス導入することで、ゼロカーボンシティの実現を進めました。	今年度末導入予定のEVバスの走行実績を基に、効果の検証を行い、ゼロカーボンシティの実現に向けて公共交通としてできることを検討します。

■年間スケジュール



【協議会の実施状況】

第1回協議会	令和6年6月27日	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通確保維持事業承認 第三者評価委員会の評価報告 自家用有償旅客運送の更新登録承認
書面表決	令和6年9月6日	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 運賃協議会の設置 関シティバスの一部ダイヤ改正
第2回協議会	令和7年1月22日	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通確保維持改善事業評価 デマンドタクシー実証実験承認

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年12月20日 (別添1)

協議会名: 関市公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(陸上交通における地域内フィーダー系統及び離島航路)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・小金田線	これまでの事業評価、路線別評価の結果を受け、さらなる利用促進を図った。 R6.11 クリスマス装飾を実施して、市内運行を実施	A 事業は計画に基づき適切に実施された。	C 利用者数14,317人(前年比625人↑) 収支率4.8%(前年比0.1%↓)	対前年度比5%増。コロナ以前の利用者まで戻っていない。 マーゴ利用者が全体の25%を占めているほか、ターミナルでの乗継や中濃病院への移動手段として利用されている。 免許証自主返納者の利用が徐々に増加しているため、利用者ニーズを把握しながら、利用促進を目指していく。
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・小金田線 百年公園経由	R6.7ケアマネージャーを対象としたバス教室と意見交換会を実施			
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・千疋線(～R6.3.31) 中濃厚生病院～中濃厚生病院	これまでの事業評価、路線別評価の結果を受け、さらなる利用促進を図った。 R6.1 障がい者がバスに乗り降りしやすいよう、歩車道境界ブロックの一部切下げを実施 R6.4 商業施設(マーゴ)経由にダイヤ改正を実施	A 事業は計画に基づき適切に実施された。	C 利用者数4,456人(前年比494人↑) 収支率2.6%(前年比0.4%↑)	対前年度比11%増。4月からのダイヤ改正でマーゴ経由になり、利用者が増加したが、わかくさプラザ改修工事により、わかくさプラザ乗降者は約200人ほど減少した。 今後も利用者のニーズを把握して、利用促進を図る。
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・千疋線(～R6.3.31) 中濃厚生病院～中濃厚生病院 百年公園経由				
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・千疋線(～R6.3.31) 大平台タウン～中濃厚生病院				
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・千疋線(～R6.3.31) 中濃厚生病院～大平台タウン 百年公園経由				
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・千疋線(R6.4.1～) 太平台タウン～中濃厚生病院 栄町経由				
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・千疋線(R6.4.1～) 中濃厚生病院～中濃厚生病院 栄町経由				
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・千疋線(R6.4.1～) 中濃厚生病院～中濃厚生病院 マーゴ経由				
岐阜乗合自動車株式会社	わかくさ・千疋線(R6.4.1～) 中濃厚生病院～中濃厚生病院 マーゴ経由				
岐阜乗合自動車株式会社	関板取線 寺尾経由	これまでの事業評価、路線別評価の結果を受け、中学生に対して利用促進を図った。	A 事業は計画に基づき適切に実施された。	C 利用者数54,215人(前年比4,224人↑) 収支率9.7%(前年比1.4%↑)	前年度比8%増。特に関高校、山県高校バス停利用者数の増加が大きい。 利用者増加した主な要因としては、関高校、瀬尻小学校への通学者と武芸川内工場への外国人通勤者等の増加と推察されるため、高校進学を検討する中学生を対象に、公共交通での通学案内を実施し、利用促進を図る。
岐阜乗合自動車株式会社	関板取線 山県経由	R6.12中高生を対象にした利用促進チラシを学習塾に配布			

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年12月20日

協議会名:	関市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(陸上交通における地域内フィーダー系統及び離島航路)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>関市の高齢化率は年々上昇しており、特に中山間地域では、高齢化率が30%を超え、高齢化、過疎化の進展が著しい状況にあります。また、少子化により、通学で公共交通を利用する機会が多い高校の生徒数は、平成12年以降、減少傾向が続いています。</p> <p>このような状況の中、公共交通サービスを維持確保するためには、より多くの市民が公共交通を利用する必要があり、まちづくりと一体となった公共交通の利用促進が求められます。実現するためには、利用しやすい交通体系の構築が必要となり、市民ニーズに応じた生活交通を確保すること目的として、今年度策定する関市地域公共交通計画に基づき、地域公共交通確保維持改善事業に取り組んでいきます。</p>